

## 米、麦、茶葉配合飼料に油脂を配合しても 肥育豚の背脂肪厚に影響せず食味で好まれる

佐賀県畜産試験場では、飼料高騰や食の安全・安心の観点から、飼料自給率の向上を図るため、輸入飼料であるトウモロコシの代わりに、飼料用米（玄米）を 40%、大麦を 15%、製茶加工残さを 1% 配合した基礎飼料に暑熱期のエネルギー不足を補う目的で植物性油脂（パーム油）を配合した飼料を肥育後期豚に給与し、肥育豚の暑熱期に適した飼養管理技術を確立しましたので紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 飼料用米（玄米）を 40%、大麦を 15%、製茶加工残さを 1% 配合した肥育後期用飼料を調製し、夏期（7～9 月）の暑熱環境下において、植物性油脂（パーム油）を段階的に配合した飼料（0、3、5、7%）を肥育豚への不断給与と試験を行い、飼養成績、枝肉成績および肉質等について、植物性油脂（パーム油）を給与しない場合と比較しました。
2. 試験は LWD 去勢豚を供試し、2～3 頭の群飼で各区に 2 群ずつを割り当てました。飼料用米や大麦は 2mm 以下に粉碎処理しました。
3. 油脂を 3～7% の配合割合で暑熱期の肥育後期豚に不断給与した結果、油脂の配合割合による飼養成績の差は確認されませんが、味、香りなどの官能評価においても好まれる結果となりました。
4. 暑熱期の肥育後期豚に油脂の配合割合を増やすと、枝肉重量の減少傾向がみられるものの、厚脂が発生しませんでした。



図1 給与飼料用米・大麦飼料



図2 製茶加工残さ



図3 試験豚のロース肉

### ☆ 活用面での留意点

国産飼料を多給する技術として活用が期待されますが、飼料用米や大麦等の原料は粉碎処理を行い、油脂等の配合には、養分要求量を考慮して設計することが望ましいです。

当成果は、農林水産省委託プロジェクト研究（気候変動対策プロ）の課題である「飼料のエネルギー調整と地域資源の機能性を活かした肥育豚の暑熱対策技術」に関わる予算によって実施されました。詳しくは、担当実施機関である佐賀県畜産試験場（中小家畜部 脇屋裕一郎、TEL: 0954-45-2030）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）